

新年のご挨拶

新春を迎え、読者の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素はひとかたならぬご厚情を賜り心より御礼申し上げます。

『モダンメディア』は、1955年に創刊し、本新春号で通巻770号となりました。これも、ひとえに皆様からの長きにわたるご支援、ご協力の賜物と深く感謝いたしております。

また、昨年3月に実施しました「モダンメディアアンケート」にご協力いただきまして大変ありがとうございました(集計結果は第65巻・第10号に掲載)。ご意見やご要望、そして激励のお言葉も沢山いただきました。今後のモダンメディアの誌面づくりに活かしていきたいと存じます。

臨床検査薬業界におきましては、医療費抑制策による厳しい経営環境が続き、各企業はより一層のコスト競争力と積極的な海外展開が求められる状況となっております。このような経営環境の下、栄研化学グループでは、新経営構想“EIKEN ROAD MAP2019”の基本戦略に基づき、「経営効率を高めるための基盤整備」、「グローバル展開の推進」、「国内販売のシェアアップ」、「研究開発力の強化」の4つを重点施策として、持続的な成長と収益性の向上に努めております。

なかでも、主力製品の便潜血検査薬おきましては販売数の拡大に注力し、現在、50か国以上の医療機関に提供しております。また、海外向けの尿検査事業におきましても、シスメックス株式会社との業務提携により堅調に売上げを伸ばしております。さらに、遺伝子検査事業におきましては、LAMP法を用いた『全自動核酸検査装置 Simprova®』の早期上市に向けて鋭意取り組んでおり、結核遺伝子検査法(TB-LAMP)に関しましても、昨年8月の第7回アフリカ開発会議(TICAD7)におけるサイドイベントにて、結核根絶に向けた栄研化学の活動方針を発表しております。

栄研化学グループは、「ヘルスケアを通じて人々の健康を守ります」を経営理念としており、グローバル展開を通じて、より多くの人々の健康を守ることに貢献したいと考えます。そのためには、従業員一人ひとりも心身ともに健康でなければなりません。その取組みの一環として昨年8月に、「健康経営宣言」を発表しました。

さて、本誌恒例の新春放談2020年では、「がんゲノム医療時代の幕開け」と題し、4名の先生方にご登場いただきました。聞き手は、ISO/TC212国内検討委員会ならびにJCCLS遺伝子関連検査標準化検討専門委員会の委員長で、本誌編集委員長でもあります宮地勇人先生(東海大学)にご担当していただきました。語り手には、がんゲノムの専門家である3名の先生にご出席いただき、検査室側から中谷中先生(三重大学)、診療側から平沢晃先生(岡山大学)、病理側から矢田部恭先生(国立がん研究センター)にお話をうかがいました。

昨年6月、がん遺伝子パネル検査が保険収載され、まさに、がんゲノム医療は令和元年に幕開けをしたといえます。これを受けて、今回のテーマが決まりました。人それぞれに最も適した治療の選択を可能とする本格的ながんゲノム医療の現状や課題、そして今後の展望について、幕開けにふさわしい熱いお話をいただきました。まだ寒さは厳しいですが、暖かいお部屋でじっくりとお読みいただければ幸いです。

本年も、より一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。そして、皆様方にとって素晴らしい年となりますよう心よりお祈り申し上げます。



栄研化学株式会社

代表執行役社長

和田 守 史